

臨床

舌 癌 (臨床講義)

教授 醫學博士 磯部 喜右衛門 述

助手 醫學士 青 柳 安 誠 記

患者。新保某。六十二歳。男。運送業。

遺傳的關係。特記スベキモノハ無イ。

既往症。二十歳ノ頃淋疾ヲ病ミシ以外、幼時カラ全ク健全デアル。飲酒家ニシテ從來一日八合ナリシモ最近ハ一日一合ナリ。尙煙草ハ相當ニ喫ス。ト。

現在症。壯年時カラ多數ノ齶齒ガアツタガ、約三ヶ月前カラ右側ノ舌緣部ガ該齒ニ接觸シテ疼痛ヲ訴ヘル様ニナツタ。其ノ後此ノ疼痛ノ強度ヲ増加シ、一ヶ月前カラ局所ニ示指頭大ノ腫物ヲ生ジテ其ノ表面ハ崩壊シ、近來ハ舌ノ運動ガ不充分トナリ且ツ、言語モ不明瞭トナツテ來タ。尙攝食時、談話時ニ當ツテ疼痛ヲ感じ、加之該腫物ノ漸次増大スルニ連レテ同時ニ右耳部ニ放散スル可成ニ強度ノ疼痛ガ起ル様ニナツテ來タ。最近ハ流動食ノミヲ攝ルノデ羸瘦シテ來タ。睡眠ハ疼痛ノ爲ニ妨ゲラル。大便ハ一日一行。尿中ニハ微量ノ糖ヲ證明スル。

患者ハ中等大デ體格ハ強、榮養モ良。皮膚及ビ脈搏ノ性狀等ニハ異常ヲ認メ得ナイ。何處ノ淋巴腺ニモ腫脹ハ無イガ、特ニ頸部ニハ何等ソレヲシキモノヲ觸レナイノデアル。顔部デハ口腔ヲ除イタ他部ハ全ク異狀無ク、胸部及ビ腹部ノ内臓器ニモ異常ヲ見ナイ。四肢ハ運動、感覺共ニ尋常。

局所所見。口腔ヲ診ルト上齒列ニ於テハ左側犬齒以外全部、下齒列デハ二門齒、二犬齒、二第一小白齒ノ存スル以外全部脱落シテ居ル。ソシテ右側ノ犬齒及ビ第一小白齒ニ接觸スル舌縁デ、寧ロ舌ノ下面ニ偏シテ、口腔底カラ舌ノ右側縁ニ亘ツテ、約雀卵大ノ硬結ヲ造ツテ居ル。其表面ハ潰瘍狀ニ崩壊シ、周縁ハ高ク隆起シ、底面ハ凸凹不平デアツテ、之レニ觸レルト可成リ硬イガ容易ニ出血スル。而モ臭氣ノアル分泌物ガ絶エズ分泌サレテ居ル。顎下腺及ビ頸部ノ淋巴腺ハ少シモ腫張シテ居ナイ。前記殘存齒牙ニハ齶齒ガ無イ。

今試ミニ舌ニ潰瘍ヲ造ルモノヲ舉ゲテ見レバ大體次ノ四種類デアル。

(一) 外傷性潰瘍

(二) 結核性潰瘍

(三) 護謨腫性潰瘍

(四) 癌腫

外傷性潰瘍ハ舌ガ齶齒ニ接觸シ、常ニ刺激ヲ加ヘラレ傷害ヲ受ケテ潰瘍ヲ生ズルデアルガ、絶エズ傷害ヲ蒙ル爲メニ疼痛ガ割合ニ強イモノデアルカラ、患者ハ早く之レニ對スル所置ヲ行フ故ニ創傷面ハ余リ深部ヘ迄ハ進マナイモノデア。譬ヘ其ノ周圍縁ニ浸潤ヤ結締組織ノ増殖ガ起ツテ硬クナツテ居ツテモ潰瘍ハ通常極ク表在性ノモノデアツテ、齶齒ヲ抜キ去レバ間モナク治癒スルモノデア。

然シ、此ノ患者ニハ現在齶齒ガ無イシ、又此ノ潰瘍面カラ癌デモ發生セシ場合ノ他ニハ單純ナル外傷性潰瘍ガ此ノ様ニ擴ガリテ大キクナルト言フコトハ先ヅ無イモノデア。

結核性潰瘍ハ舌ノ先端ニ來ルコトガ多イモノデア。通常肺結核ノ末期ニ來ルモノデ、潰瘍ノ周圍縁ハ暗紫色トナリ掘鑿狀ヲ呈シ、少シモ浸潤、硬結ヲ造ラズシテ、一見判別ノツク物デア。

護謨腫ト癌腫トノ鑑別ハ屢々甚ダ困ル場合ニ遭遇スルガ、護謨腫ハ初メ護謨結節トシテ生ジ、後ニ其内部ニ於テ豚脂様

ノ壞死物質ヲ造リ、外部へ破レテ潰瘍ヲ造ルノデアルガ、周圍ニ浸潤ヲ造リツ、増大シテ行クモノデアルカラ、臂へ中央部ガ潰瘍性ニ崩壞シテ居ツテモ、其周縁部ハ隆起シテ硬ク癌腫性潰瘍ト全ク同一ノ外觀ヲ呈スルモノデアルガ然シ、護膜腫ハ先ヅ舌ノ側縁部ニ生ズルコトハ殆ンド無ク、中央デ而モ前半ニ來ルコトガ多イモノデアル。又屢々多發性ニ來ルコトモアルガ、癌腫ハ通常側縁ニ出來テ而モ唯一ツデアル。故ニ此ノ患者ノ潰瘍ハ此ノ點ニ於テ先ヅ癌腫ニ近イ。

次ニ、護膜腫ノ潰瘍ハ肉芽組織ガ頗ル強靱デアツテ一寸觸レタリ、或ハ搔把シテモ容易ニ出血シナイモノデアルガ、癌腫デハ軟クテ脆ク容易ニ出血スルモノデアル。丁度此ノ患者ノ潰瘍モ同様一觸ルト直グ出血スルノデアル。最後ニ護膜性潰瘍デハ何處カニ必ズ豚脂様ノ壞死物質ガ一部分殘存シテ居ルノガ普通デアルガ、此患者ニハ其レモ無イ。尤モ護膜腫性ノ潰瘍デモ此ノ豚脂様物質ガ附着シ居ラスコトモアルガ、ソレハ護膜腫變性ガ其進行ヲ停止シ、治癒ニ赴キツ、アル時デアツテ、其様ナ場合ニハ底面ハ奇麗ナ肉芽組織デ全部破ハレテ居ルモノデアルガ、此ノ患者ハ其底面凹凸不平デアツテ少シモ肉芽被ハレテ居ナイ。此ノ點カラ考ヘテモ恐ク癌デアラウト思ハレル。

尙ホ自然疼痛ハ癌ニ於テノミアルモノデ、護膜腫ニハ無イ。而モ其疼痛ハ通常耳部ニ向ツテ放散スルノガ特徴デアル。此ノ點モヨク癌ニ一致シテ居ル。

所屬ノ淋巴腺ノ腫張ハ癌腫ノ際ニハ殆ンド常ニ現ハレテ來ルモノデアルガ、護膜腫ノ際ニハ缺如スルノガ普通デアル。就中、總頸動脈ノ分岐點乃至鎖骨上窩部ニ淋巴腺腫張ヲ觸レル時ニハ、先ヅ癌ト見做シテ誤ハ無イノデアル。然ルニ此ノ患者ニハ何處ニモ淋巴腺腫張ヲ見出サナイ。此點ダケハ癌ニ一致シナイ。但シ此レニハ斯クアルベキ理由ガアルノデア

ル。
抑々舌癌ニハ表在性ノモノト、深在性ノモノトノ二種類アツテ、後者ハ舌底部ニ在ル腺組織カラ發生スル腺細胞癌デアツテ、其ノ生ズル時ニハ先ヅ深部ニ腫瘍ヲ造リ漸次増大シテ粘膜ヲ壓排舉上シ、終ニ崩壞シテ潰瘍ヲ造ルモノデアル。

前者ハ初メカラ潰瘍性ノ狀態ヲ呈スルモノデ、舌ノ粘膜カラ發生シ組織學的ニハ扁平表皮癌デアル。此ノ表皮癌ハ屢々

白斑カラ生ジ、特ニ喫煙家ニ來ルコトガ多ク、其様ナ場合ニハ其癌ノ周圍ニ未ダ白斑ノ殘ツテ居ルコトモアルモノデアルガ、此ノ患者ニハ其様ナモノハ無イ。尙ホ表皮癌デハ底面ヲ壓スルト粟粒大ノ乳色ノ膿栓ヲ出スコトガ多イ。

之レハ壞死シタ表皮癌珠デアル。此患者ノ潰瘍面ヨリ此膿栓ヲ壓シ出スコトガ出來ルカラ、表皮癌ナラント思ハレル。而シテ腺細胞癌ハ其進行ハ甚ダ速デアツテ容易ニ所屬淋巴腺ニ轉移ヲ造ルモノデアルガ、表皮癌ハ一般ニ轉移ヲ造ルコト尠ク、造ツテモ非常ニ遲イモノデアル。其故ニ此患者ノ癌腫ニモ未ダ淋巴腺轉移ヲ來シテ居ラナクテモ敢テ不思議デナイ譯デアル。

以上ノ如ク種々ト異點ヲ列舉シテ見ルガ、實際ニ當ツテ護謨腫ト癌腫トノ區別ガ甚ダ附キ難イ場合モ少クナイノデアル。其様ナ際ニハ血清ノワ₁氏反應ヲ検査シ、又ハ患部ノ試験的切片ヲ造ツテ検査シ、以テ診斷ヲ確實ニセネバナラス。此ノ患者ハ検査ノ結果矢張り表皮癌デアツタ。

療法トシテハラジウム等モ試ミラル、ガ、患部ノ切除ガ最良ノ方法デアル。此際譬ヘ顎下部乃至頸部ニ淋巴腺ノ腫張ヲ觸レズトモ充分ニ廓清法ヲ行ツテ置クベキモノデアル。(昭和二年十月十三日講)